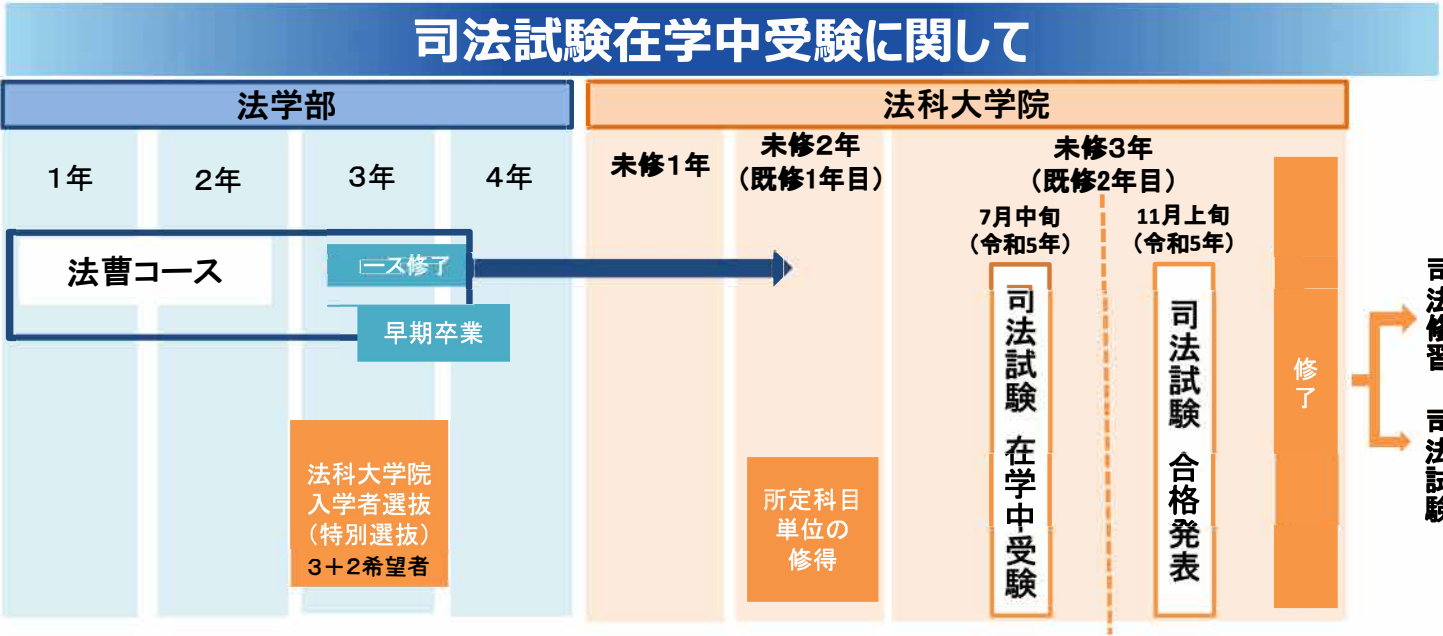


令和3年度司法試験の在学中受験の 導入等に伴うカリキュラムに関する調査

集計対象：令和3年4月1日時点で学生を募集している法科大学院を持つ大学（35校）
調査基準日：令和3年10月1日

1



- 在学中受験資格（司法試験法第4条の第2項）
- 法科大学院の課程に在学
 - 以下の2点につき、法科大学院を設置する大学の学長が認定
 - ①法務省令で定める所定科目単位を修得していること
 - ②1年以内に当該法科大学院の課程を修了する見込みがあること
- 【所定科目単位について】
- 法律基本科目 ※憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目
 - 基礎科目：主に未修1年次で学修するもの（法学既修者認定の対象） 30単位以上
 - 応用科目：主に未修2年次（既修1年目）以降に学修するもの 18単位以上
 - 倒産法・租税法・経済法・知的財産法・労働法・環境法・国際関係法（公法系）・国際関係法（私法系） 4単位以上

2

1. カリキュラム編成方針について

2. 学期制について

3. 各科目の単位数について

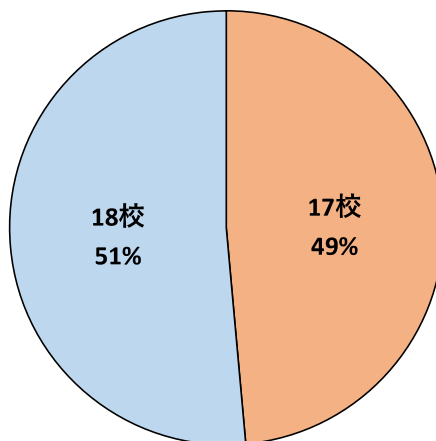
4. 3年次のカリキュラムについて

1. カリキュラム編成方針について

1. カリキュラム編成方針について

(1) 在学中受験を想定したカリキュラム編成の方針

■ 令和5年度以降のカリキュラム編成について、基本的な方針はどのようなものですか。（選択式）



■ (b) 希望する学生のみが2年次までに所定科目単位を取得できるカリキュラムを策定(18校)

■ (a) 原則として全員が2年次までに所定科目単位を取得するカリキュラムを策定(17校)

5

1. カリキュラム編成方針について

◆ 在学中受験が多く、原則として全員が2年次までに所定科目単位を取得するカリキュラムを策定する法科大学院

(2) カリキュラムの前提となる在学中受験を希望する学生への指導方針や留意点など (自由記述)

※各大学の回答（自由記述）のポイントを事務局にてとりまとめ。

○ 司法試験の受験前、合格発表前、合格発表後などの各段階で学生の状況に合わせて指導する予定という回答が多く見られた。

【司法試験受験前】

- ・授業科目の段階的・体系的履修を維持しつつ、3年次前期は、法律基本科目など司法試験に直結する科目を集中的に学修し、受験前までに司法試験科目を一通り履修できるようにする。
- ・一方で、6・7月は司法試験の受験勉強に集中できるように配慮する予定。

【受験後合格発表前】

- ・司法試験後に行われる前期の期末試験に集中して学修するよう指導する。
- ・3年次後期は、「プロセスとしての法科大学院教育」として、法律実務基礎科目や展開・先端科目に該当する選択科目の授業を積極的に勧める。法曹として、幅広い視野を持って活躍できるようこれらの科目を通じて指導する。

【合格発表後】

- ・合格した学生に対しては、引き続き、法律実務基礎科目や展開・先端科目等の選択科目の履修を勧める。
- ・合格しなかった学生に対しては、まずは、3年次後期の期末試験に向けてしっかり学修することを奨励する。次の司法試験に向けて、学生間の勉強会、オフィスアワーなどを利用した指導（担当教員に授業や学習方法についての質問対応）などを行い、次の司法試験に向けたモチベーションを維持できるよう指導する。

○ 他方、以下のような回答も見られた。

- ・合格発表前・後を区別した指導は予定していない。
- ・司法試験受験前後、合格発表の前後を問わず、本法科大学院の教育理念にそって、教育する。

6

1. カリキュラム編成方針について

◆在学中受験が多く、原則として全員が2年次までに所定科目単位を取得するカリキュラムを策定する法科大学院

(3) 在学中受験をしない学生への指導の工夫など（自由記述）

※各大学の回答（自由記述）のポイントを事務局にてとりまとめ。

○在学中受験をしない学生への配慮として、以下のような回答が見られた。

- ・在学中受験をするかどうかの選択に迫られ、学修面での助言を求める学生には、担任委員会の教員が対応して、適切な支援を行うよう試みる。
- ・在学中受験しない学生のための履修モデルを検討。
（法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目（外国法含む）、展開・先端科目を3年次前期から履修し、実務起案力の養成は3年次後期まで継続できるようなモデル）

（3年前期）

- ・在学中受験しない学生は、3年次前期においても多様な科目を履修できるように選択科目として配置。
- ・3年次前期は、在学中受験しない学生も、在学中受験する学生と同様に、法律基本科目を学修することになるが、学生が復習を通じて授業内容の理解を深めることができるよう、担当教員はオフィスアワーなどを通じて学生からの質問対応をするなど、丁寧な指導を予定。

（3年後期）

- ・3年次後期に、修了後に司法試験を受験する予定の学生を対象とした演習科目を設置し、継続的なフォローを実施。

2. 学期制について

2. 学期制について

(1) 令和5年度以降の学期制 ①

大学名	令和5年度以降の学事暦					
	学期制			3年次の定期試験実施時期		
	1年次	2年次	3年次	3年次前期	司法試験の前後	3年次後期
北海道大学	クォーター(通年)	前期/後期	前期/後期	8月上旬(予定)	後	1月下旬～2月上旬(予定)
東北大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	原則として学期末の8月初旬	後	2月初旬
筑波大学	※その他	※その他	※その他	6月末、8月中旬、9月末	前	12月中旬、2月初旬
千葉大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	8月下旬	後	2月中旬
東京大学	前期/後期	前期/後期	※クォーター(前期のみ)	多くは前期終了時	後	後期終了時
一橋大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月	前	12月または1月
金沢大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬頃(予定)	後	1月下旬頃(予定)
名古屋大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	8月上旬頃	後	2月上旬頃
京都大学	前期/後期	前期/後期	※クォーター(前期のみ)	7月下旬～8月上旬	後	1月下旬～2月上旬
大阪大学	クォーター(通年)	クォーター(通年)	クォーター(通年)	検討中	未定	検討中
神戸大学	前期/後期	前期/後期	※クォーター(前期のみ)	検討中	未定	1月～2月
岡山大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	8月上旬	後	2月上旬
広島大学	クォーター(通年)	クォーター(通年)	クォーター(通年)	8月	後	2月
九州大学	前期/後期	前期/後期	※クォーター(前期のみ)	5月下旬～6月上旬(前期の一部科目のみクォーターのため)	前	1月下旬～2月上旬
琉球大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	8月初旬	後	1月下旬
東京都立大学	未定・検討中	未定・検討中	未定・検討中	検討中	未定	検討中
大阪市立大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬～8月上旬頃	後	1月下旬～2月上旬頃

※ 筑波大学：前期/後期制ではあるが5週のモジュールを前期は4つ(全学的には3つ)、後期は3つ設定している。

※ 東京大学・京都大学・九州大学：前期の一部の科目のみクォーター制

※ 神戸大学：後期については、検討中

9

2. 学期制について

(1) 令和5年度以降の学期制 ②

大学名	令和5年度以降の学事暦					
	学期制			3年次の定期試験実施時期		
	1年次	2年次	3年次	3年次前期	司法試験の前後	3年次後期
学習院大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	8月上旬	後	1月下旬
慶應義塾大学	前期/後期	前期/後期	クォーター(前期のみ)	6月初旬	前	1月下旬
駒澤大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬	後	1月中・下旬
上智大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月中旬～下旬予定	後	1月中旬～下旬予定
専修大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬～8月上旬	後	1月下旬～2月上旬
創価大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	検討中	後	1月中下旬
中央大学	前期/後期	前期/後期	未定・検討中	未定。カリキュラムの趣旨からすると司法試験の前と想定。	前	1月後半～2月上旬
日本大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬～8月上旬	後	1月下旬
法政大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬～8月上旬	後	1月下旬～2月上旬
明治大学	未定・検討中	未定・検討中	未定・検討中	検討中	未定	検討中
早稲田大学	前期/後期	前期/後期	※前期/後期	7月下旬実施予定	後	1月下旬実施予定
愛知大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬～8月上旬	後	1月下旬～2月上旬
南山大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月末	後	1月末～2月初旬
同志社大学	前期/後期	前期/後期	※クォーター(前期のみ)	7月下旬～8月上旬	後	1月下旬～2月上旬
立命館大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬～8月上旬頃	後	1月下旬
関西大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬	後	1月中旬
関西学院大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬(司法試験在学中受験対象者は、追試験受験の対象とする。)	後	1月下旬
福岡大学	前期/後期	前期/後期	前期/後期	7月下旬	後	1月中旬～下旬

※ 早稲田大学：制度上の学期は前期/後期制であるが、前期の3年配当の科目は、主に前期の前半クォーターとなる。

※ 同志社大学：前期の一部の科目のみクォーター制

10

3. 各科目の単位数について

3. 各科目の単位数について

(1) 単位数（各科目群の最低限の取得単位数）① 在学中受験が開始する前後で比較

R2は「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度未修者、令和3年度既修者に適用）」

R3は「令和3年度入学カリキュラム（令和3年度未修者、令和4年度既修者に適用）」（在学中受験対応）

大学名	修了要件		各科目群											
			合計		法律基本・基礎		法律基本・応用		実務基礎		基礎隣接		展開先端	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
北海道大学	94	94	86	88	32	32	26	26	12	14	4	4	12	12
東北大学	96	96	92	92	30	30	28	28	14	14	4	4	16	16
筑波大学	93	93	93	93	38	38	24	24	14	14	4	4	13	13
千葉大学	95	95	84	84	38	38	20	20	10	10	4	4	12	12
東京大学	93	93	80	80	30	30	24	24	10	10	4	4	12	12
一橋大学	95	93	95	93	38	38	22	22	12	12	7	7	16	14
金沢大学	104	98	94	92	44	42	24	24	10	10	4	4	12	12
名古屋大学	98	98	98	98	32	32	34	34	12	12	4	4	16	16
京都大学	96	96	82	84	28	30	28	28	10	10	4	4	12	12
大阪大学	98	98	88	88	34	34	24	24	14	14	4	4	12	12
神戸大学	100	93	88	87	34	30	28	29	10	12	4	4	12	12
岡山大学	97	97	79	87	34	34	26	26	11	11	4	4	4	12
広島大学	103	103	99	99	31	31	37	37	10	10	9	9	12	12
九州大学	96	96	94	94	32	32	32	32	14	14	4	4	12	12
琉球大学	94	94	93	93	37	37	24	24	10	10	4	4	18	18
東京都立大学	97	97	84	84	32	32	26	26	10	10	4	4	12	12
大阪市立大学	97	97	87	87	37	37	20	20	12	12	4	4	14	14

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

(単位: 単位)

13

3. 各科目の単位数について

(1) 単位数（各科目群の最低限の取得単位数）② 在学中受験が開始する前後で比較

R2は「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度未修者、令和3年度既修者に適用）」

R3は「令和3年度入学カリキュラム（令和3年度未修者、令和4年度既修者に適用）」（在学中受験対応）

大学名	修了要件		各科目群											
			合計		法律基本・基礎		法律基本・応用		実務基礎		基礎隣接		展開先端	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
学習院大学	105	101	98	94	36	36	32	32	10	10	4	4	16	12
慶應義塾大学	100	94	85	82	30	30	29	26	10	10	4	4	12	12
駒澤大学	99	99	99	99	34	34	30	30	17	17	4	4	14	14
上智大学	101	100	96	95	30	32	37	34	13	13	4	4	12	12
専修大学	108	108	96	96	38	38	30	30	12	12	4	4	12	12
創価大学	103	98	96	93	33	35	35	30	10	10	4	4	14	14
中央大学	96	93	90	82	32	31	25	25	10	10	6	4	17	12
日本大学	94	96	88	90	28	30	32	32	12	12	4	4	12	12
法政大学	102	102	96	98	34	34	30	32	12	12	4	4	16	16
明治大学	103	103	86	86	42	42	18	18	10	10	4	4	12	12
早稲田大学	102	93	82	88	30	30	38	32	10	10	4	4	※ ¹	12
愛知大学	108	108	98	98	44	44	28	28	10	10	4	4	12	12
南山大学	102	102	86	86	38	38	18	18	14	14	4	4	12	12
同志社大学	96	96	85	85	30	30	27	27	10	10	6	6	12	12
立命館大学	98	98	94	94	36	36	24	24	12	12	6	6	16	16
関西大学	100	100	94	94	34	34	26	26	12	12	6	6	16	16
関西学院大学	100	100	98	98	34	34	30	30	12	12	6	6	16	16
福岡大学	98	98	89	89	44	44	18	18	11	11	4	4	12	12

※単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

(単位: 単位)

※¹ 法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目及び展開・先端科目の合計で34単位以上

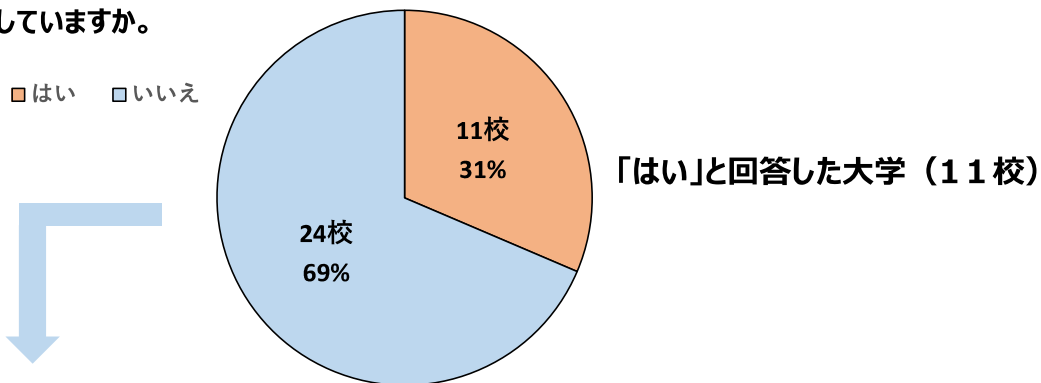
14

3. 各科目の単位数について

(2) 在学中受験に必要な所定科目単位

- カリキュラム上、在学中受験に必要な所定科目単位（合計52単位以上）は、2年次後期までに必修で履修することとしていますか。

■ はい ■ いいえ

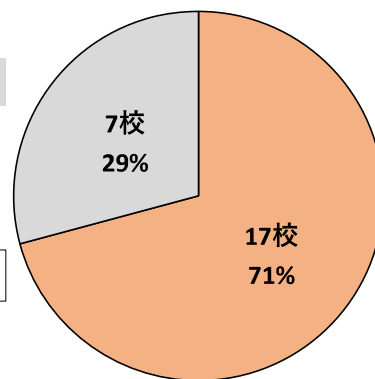


- 「いいえ」と回答した大学（24校）のうち、履修指導予定

■ a) 在学中受験希望者に対して2年次までに先取りで履修するよう指導する

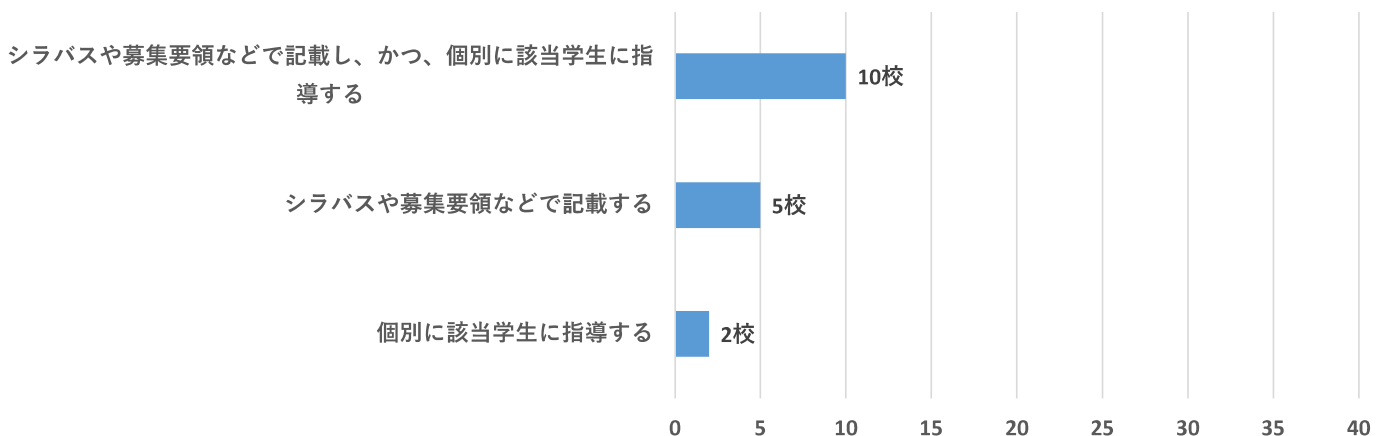
□ c) 未定・検討中

□ 「c)未定・検討中」と回答した大学（7校）



15

- 「a)在学中受験希望者に対して2年次までに先取りで履修するよう指導する」を選択した大学（17校）のうち、その方法を回答してください。（選択式）



16

4. 3年次のカリキュラムについて

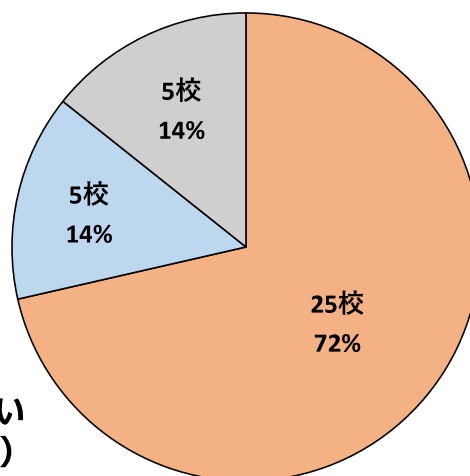
17

4. 3年次のカリキュラムについて

(1) 3年次前期の司法試験前後に必修科目を配置していますか。(選択式)

※司法試験前後とは、3年次の6～7月頃(第2クォーターに相当)

■ 未定・検討中と回答した大学(5校)



■ いいえ(必修科目を配置していない)と回答した大学(5校)

■ はい(必修科目を配置している)と回答した大学(25校)

18

4. 3年次のカリキュラムについて

(2) 3年次前期の司法試験前後に、必修科目を配置している場合、どのような科目ですか。(自由記述)

※各大学の回答(自由記述)のポイントを事務局にてとりまとめ。

○ 3年次前期に配置している必修科目の例としては次の通り。

<法律基本科目(応用)>

・公法演習Ⅱ(1単位)、企業法演習Ⅱ(1単位)、民法法総合Ⅳ(1単位)、刑事法総合Ⅲ(1単位)、民法演習Ⅲ(2単位)など

<法律実務基礎科目>

・民事裁判基礎Ⅱ(2単位)、民事法務基礎(2単位)、刑事実務概論(1単位)、法曹倫理(2単位)、刑事訴訟実務の基礎(2単位)など

<展開・先端科目>

・発展ゼミⅠ(2単位) など

※(参考) 3年次後期に配置されている、法律実務基礎科目・展開先端科目の必修科目の例

<実務基礎科目>

・法曹倫理(2単位)、刑事裁判演習(3単位)、模擬裁判(民事)(2単位)、模擬裁判(刑事)(2単位)、クリニック(1単位)、刑事実務基礎(2単位)、民事訴訟実務の基礎(2単位)、刑事訴訟実務の基礎(2単位)など

<展開・先端科目>

・発展ゼミⅡ(2単位) など

19

4. 3年次のカリキュラムについて

(3) 3年次で、司法試験実施後、合格発表前／司法試験合格発表後の期間の授業や学生指導や司法修習との有機的な連携において、どのような工夫や配慮が必要ですか。(自由記述)

※各大学の回答(自由記述)のポイントを事務局にてとりまとめ。

<合格発表前>

- 実務法曹としての活動を具体的にイメージさせるための説明会等の取組を実施し、後期から始まる実務系科目の授業内容と有機的な連携を図る。
- 司法試験受験生については、司法試験の自己採点いかんにかかわらず、引き続き、法科大学院の必修科目のほか、特に、司法試験の選択科目以外の先端・展開科目を履修するよう促す。司法試験の結果を不安に感じる学生に対して、必要であれば教務委員などが面談により精神的な面での対応を行うことも考えられる。
司法試験を受験していない学生については、修了後の司法試験受験に向けた準備を整えるよう指導する。
- 夏季休暇も含めて、複数回の個別指導を行い、学生の学修の強みを活かし弱みを解消する方向で、後期の学習計画を立てさせる。状況によって当該計画を変更することを認め、履修登録等に柔軟性を持たせる。
- 夏季集中講座としてエクスターンシップ等を開講し、後期前半には、法律実務基礎科目や基礎法学・隣接科目(外国法など)、展開・先端科目を数多く開講し、学生の興味や進路に応じた履修を促す。

<合格発表後>

- 合格した学生には、実務法曹として必要な能力を身に付けることの必要性を説き、合格しなかった学生にはフォローアップ科目(1単位)を設けている。
- 合格した学生については、特に、司法修習との有機的な連携を確保するために3年次後期に移動した実務選択科目や実務に関連する展開・先端科目の履修を勧める。合格しなかった学生については、面談など精神的な支援や学習上の助言をして、ケアに努める。
- 実務法曹としての責任感や使命感を醸成するためのセミナーや講演会、若手弁護士等との交流機会等の設定を検討。
- 司法修習との接続を意識し、現在は修了生向けに実施している入所前セミナー等を在学学生にも拡大する等、検討予定。
- 司法修習との連携の工夫として、在学中受験者は、実務基礎科目において、実務実習科目の履修時期に先だつ履修としていた「民事訴訟実務」「刑事訴訟実務」の履修をいずれも3年後期に並行して履修することから、授業内容の改訂を行う。
- 司法修習との連携という観点では、実務基礎科目を3年秋学期に配置する。

20